

37・4) 2

大鳥の羽員の山考六 生田蝶介 吾妹 (三六、

37・5) 2

大鳥の羽員の山考七 生田蝶介 吾妹 (三六、

37・6) 2

大鳥の羽員の山考八 生田蝶介 吾妹 (三六、

37・7) 3

大鳥の羽員の山考九 生田蝶介 吾妹 (三六、

37・8) 2

大鳥の羽員の山考十 生田蝶介 吾妹 (三六、

37・9) 2

大鳥の羽員の山考十一 生田蝶介 吾妹

(三五、37・10) 2

大鳥の羽員の山考十二 生田蝶介 吾妹

(三五、37・11) 2

大鳥の羽員の山考十三 生田蝶介 吾妹

(三五、37・12) 2

大鳥の羽員の山考十四 生田蝶介 吾妹

(三五、38・1) 2

大鳥の羽員の山考十五 生田蝶介 吾妹

(三五、38・2) 2

大鳥の羽員の山考十六 生田蝶介 吾妹

(三五、38・3) 1

六 植物・動物

みづくき考 小清水卓二 国語と国文学(三、

六、21・6) 3

万葉集「老師の花」の歌の研究 山口隆侑

短歌研究(六二、26・12) 9

奈良山豆比古神社境内のユノテガシワ(Biota

Orientalis Endle)の巨樹の実在と兎手柏再

考 小清水卓二 国語と国文学(元一、27・

1) 4

うらのはまゆふー万葉集続浜木綿歌考一

大養 孝 上代文学(一、27・9) 5

万葉集紅梅考 本田義彦 万葉(五、27・10)

9

カシワ考 森本治吉 短歌研究(二〇、三、28・

3) 6

浜木綿の百重なす考 小清水卓二 万葉(七、

28・4) 2

卯の花のいろいろ 土屋文明 短歌研究(二〇、

七、28・7) 3

万葉の「土針」について 松田 修 万葉集

大成月報(六、28・12) 4

榛の木考(六) 森本治吉 白路(九、三、29・3)

4

万葉集の靈威植物(上) 森本治吉 白路(九、

四、29・4) 4

万葉植物二致 森本治吉 国語と国文学(三、

五、29・5) 9

万葉集の靈異植物(中) 森本治吉 白路(九、

五、29・5) 6

万葉集枕詞と植物について 松田 修 上代

文学(四、29・7) 5

万葉集植物便覧 若浜汐子 上代文学(四、

29・7) 23

万葉に現われた稲の一生 森本治吉 上代文

学(四、29・7) 6

千二百年前の「もみぢ」 小清水卓二 万葉

集大成月報(二四、29・12) 3

万葉歌人の見た紅葉と鹿 次田 潤 万葉集

大成月報(七、30・5) 4

万葉集にあらわれる赤花の詩性 伊原 昭

上代文学(五、30・5) 7

紫草について 松田 修 万葉集大成月報

(七、30・5) 2

浜木綿のこと 松田 修 万葉集大成月報

(二〇、30・9) 1

万葉動物雑考(その五) 森本治吉 明日香路

(七、三、30・12) 3

万葉集に現われた植物・動物ー万葉集教授上

の問題点ー 若浜汐子 国文学(二、三、31・

9) 4

万葉集における四季の景物固定についてー植

物を考察の対象として― 森 淳司 語文
 (四、31・11) 11
 万葉植物冬の巻 若浜汐子 白路(三三、33・2) 2
 露霜私考―万葉の露霜― 桑川定一 国語・国文(三七・六、33・6) 16
 万葉のカマメ 山本徳太郎 万葉(二六、33・7) 5
 「万葉のカマメ」を読んで 川村多実二 万葉(二六、33・10) 3
 万葉植物の時間性 若浜汐子 白路(二三・二、33・11) 4
 万葉植物名歌評釈一 若浜汐子 白路(二四・三、34・3) 5
 万葉植物名歌評釈二 若浜汐子 白路(二四・四、34・4、5) 5
 万葉植物名歌評釈三 若浜汐子 白路(二四・五、34・6) 3
 「ひさぎ」放 沢瀉久孝 国語国文研究(三三、34・7) 3
 万葉植物名歌評釈四 若浜汐子 白路(二四・七、34・7) 3
 万葉の花園(一)―(イ)松の花・(ロ)ひさぎの花― 若浜汐子 白路(五二、35・2) 4
 万葉の花園(二)―(イ)葦の花― 若浜汐子 白路(五三、35・3) 2
 万葉の花園(三)―花をととめ― 若浜汐子

白路(五六、35・6) 3
 万葉の花園(四)―夏の花― 若浜汐子 白路(五七、35・7) 4
 万葉の花園(五)―夏の花― 若浜汐子 白路(五八、35・8) 3
 万葉植物五種 岡田善敏 美夫君志(二、35・9) 3
 万葉の花園(六)―花と挽歌― 若浜汐子 白路(五二、35・10) 2
 万葉集の「聞く」「寒し」など 能勢佐十郎 国文学叢(二四、35・11) 6
 万葉景物小論―柳― 戸谷高明 学術研究(早稲田大学)(二〇、36・11) 8
 万葉に探る梅の花 若浜汐子 白路(二六、38・2) 18
 「橋」は何か 佐伯梅友 古文研究(四、38・12) 5
 万葉地理植物考、紫の根延ぶ横野 滝川政次郎 国学院雑誌(五五、四、39・4) 8

七 品物・民俗

上代文学における庶民性 喜多義男 解釈と鑑賞(二三、21・2) 7
 万葉集にあらはれた上代人の食生活について

中崎貞子 家庭科教育(二五、一、26・1) 8
 万葉集にあらはれたゞきものゞについて(紹介) 渡辺百世 家庭科学(五、26・7) 4
 卜占 竹園賢了 解釈と鑑賞(六八、26・8) 1
 万葉集にあらはれたゞきものゞについて(二) 渡辺百世 家庭科学(六、26・9) 3
 万葉集にあらはれたゞきものゞについて(三) 渡辺百世 家庭科学(三三、26・12) 4
 日曜に「密」字を標記した貝注曆 石田幹之助 国学院雑誌(五三、二、27・6) 13
 「標」の民俗 松原義雄 上代文学(二、27・9) 8
 奈良朝の楽器 尾山篤二郎 万葉集大成月報(四、28・8) 3
 万葉集と民俗学 折口信夫 上代文学(四、29・7) 7
 奈良朝の音楽について 東山晋士 万葉集大成月報(六、29・2) 5
 万葉の歌と正倉院 上松六郎 万葉集大成月報(六、29・2) 4
 万葉集における習俗の研究―「袖振る」考― 島田啓子 日本文学(東京女子大学)(五、30・6) 12
 水辺のをとめ 今井福治郎 万葉集大成月報(二六、30・6) 2
 紫染聞書 扇畑忠雄 万葉(二六、30・7) 3